

前教授大?先生の書簡： 雑録

著者	大瀬，甚太郎
雑誌名	龍南會雜誌
巻	2 3
ページ	2 6 - 3 1
発行年	1894-02-07
URL	http://hdl.handle.net/2298/4349

ることはなりとす。されば於是乎曰く將來に於ける彼等は過去に於ける如き親密の關係は多少損失すべしと。

これは敢て多少と云ふ。蓋し彼等は決して全く相離るべき者にあらざればなり。彼等は互に原因となり結果となり、結果また原因となり、樹株に接木したるの大樹の如き狀あるべければなり。彼等は始め源頭少しく異よして湧出を來り、二川相合して滔々たる大長流となり、其間既に相混和化合したれば、今更大山前途に聳つとも相分れたる各支流は尙ほ互に其水を分與して持ち行く者あればなり。向後相距る幾万年あるとも相合したる大河の分れざれば、之を分拆せば、いかで兩者相待て然るを知らざらんや。

粗且つ野ある木炭を取り來りて、光輝燦爛たる金剛石と比較し見よ、誰れも兩者は相同じき者ありと云ふ者あらんや。されど一度燭眼ある化學者の手に觸るゝときは、寧ぞ知らん兩者一ある炭素より成立したる者あらんとは。讀者よ、汝は毛虫と同類ありと云は、諸君は必ず佛然たらん。されど生物學者は其然るを証するを如何せん。文學と宗教に於けるも又實に然り、幾千歳の下倭儒相論して、相異せりと云ふ者ありとも、彼等は尙ほ同一の炭素より出で、生命は尙ほ同一の「プロトプズム」より來ることを知認せざらんや。

前教授大瀨先生の書簡

曩きに獨乙留學を命ぜられたる大瀨先生は去年十月七日を以て途に上り萬里の波を凌いで全十一月十八日無事伯林に着せられたり先生の我會を思ふの厚き今や書を載して遠く我會眞に寄せらる我儕豈感謝せざるべけんや

拜啓各位益御清康奉賀候次に小生事無事消光罷在候間乍憚御優慮可被下候扱小生儀御地出立の節時々當地の有様等龍南會へ御通知可致旨御約束致候處當地到着後日尙淺く有之候に付未だ當地の有様を申上る譯には參らず候得共左に聊か旅行日記の様あるものを可認候につき御一覽被下候得者幸甚の至りに奉存候。

小生儀明治廿六年十月五日東京出發同日横濱に宿泊致候翌六日午前九時同港出帆の獨船ニユルンベ
ルビ號に乘込むの豫定に有之候處同船は午前六時半頃既ち出帆致候につき不得已汽船にて神戸にゆ
き七日の夜同船に乘込み候該船は香港日本間を往復する汽船にて三千四百噸の船に有之候船中の
乗客は中等室には數多の支那人、日本婦人一名、印度人一名及獨逸人數名有之候小生は一人り旅の悲
さには印度人と同室致し閉口仕候、船員は總て多少英語を話し候につき別に不自由を感じたる事は
無之候九日午前七時頃神戸解纜す風波至極穩にして十日午後四時頃長崎に着す前の日本婦人は此所
にて上陸せり其代り上等室へ日本人一名乗込候同午後八時長崎解纜致候處波荒くして船の動搖す
ること甚だ十一日十二日は寢室を出づることを得ず候得共十三日に至り波靜にあり且小生も幾分
か船に馴れ候爲め食堂にも出で甲板上をも遊歩致し得る様に相成り候十四日も風波甚だ靜あれども
暑氣の次第に加はるを覺え候同日午前十一時半頃香港に着す此所にて上海より歸り來る汽船を待ち
合せ乗替を爲す爲め二日間の滞在をあす豫定につき一日日本人を案内者として公園及山上鐵道を見物
す公園は山に據り清麗にして眺望甚だ佳なり鐵道に乗り山上に昇り候處全港眼下にあり是亦風景甚
だ宜しく有之候一体香港は狭小なる山島にて之へ無理に家屋を建築したる義により市街は狭く肩輿
を要すべき場所甚だ多く有之候稍々平坦なる所には不潔なる人力車あり不潔なる支那人之を曳き居

り候日本旅店二軒許りもあり候得共正業を營むものにてはなき様に見受け候十五日に上海より來れる汽船アロイセン號に乘替を致候該船は四千餘噸の大船にて諸事前の船よりは清麗に有之候十六日午後六時香港を解纜す是より船中日本人は小生一人と相あり候。漸次赤道に近づくを以て暑氣の加はるを覺ゆ然れども甲板上は始終涼風有り甚だ凌ぎ易き只夜中寢室の蒸し暑きには實に閉口致候廿一日午前五時頃新嘉坡に着す直ちに上陸し馬車を雇ひ見物に出かけ候植物園は廣大清麗にして温帶地方にては見るここの出來ざる植物も有之候其道の人には甚だ面白かるべきも小生には白くも黒くも無之候土地の摸様を一寸記さんに氣候は當時は曇天ありし爲め日光輝かず隨て餘り暑からず熊本あらば六月中旬とも云ふべき氣候ありし市街は思ひしよりは立派にゑて店は支那人所有のもの多く且當地には支那人甚だ多きを以て支那の土地に有るが如き思ひを致候土人は薄墨を塗りつけたるが如き皮膚を有し其家は沼の様なる所に數多の杭を立て其の上に建築致し候昔時の Lake-dwellers とは斯の如きものあらんとの者を起さしむ是れ一には雨の季節に強雨降るとき水の家内に流入するを避くると二には種々の匍行動物の家内に侵入するを拒く爲めありと當地にも日本旅店一二軒あれども是亦外國人を目的として醜業を營み居るものらしく見え候小生と同室の印度人は此所にて去れり以後は一人にて全く一室を占領罷在候然し當地にて獨逸殖民地新ギニアより歸る獨人數名乗込み候其中に一人伯林府に歸るもの有之候に付小生は之と同行を約し候廿二日午前九時頃新嘉坡を出帆す総て此邊は天氣實に變じ易く乍晴乍雨と云ふ有様なきども船は餘り動搖せざりし印度洋の大波濤を見るを得ざりしは實に遺憾(實は幸)に存候二十七日午前九時頃コロンボに着す數多の宿引案内者等船中に入り込み來り上陸を促し候當地は甚だ人氣の惡しき所にして人を欺き物を盜むを常

とするを以て油斷の出來ざる所に候小生は一土人を案内者として釋迦寺及公園を見物致候公園は廣大あれども別に眺望とても無之候當地當時の氣候は熊本あらば七月初めと云ふ暑氣にて市内には随分立派なる家もあれども市外の不潔なる實に甚だしきものよ有之候當地には土人と歐州人との雜種多くして是等は幾分の教育あるにより小役人に用ひらる居り候得共土人は實に無智不徳にえて人を欺き小盜をなすこと少しも耻とせざる由英政府も一々斯の如きものを罰するときは殆ど全島民を罰せざるべからざる勢あるを以て餘り八釜敷云はざる由土人の巡查あせども車曳きと喧嘩して遁げ行く有様にて何の役にも立たず實に劣等ある人民あり彼等は歐州人を恐るゝこと甚だしく歐人には禽獸の如く取扱はれ唯々として屈服するも日本人扱には時々不法の事を致し候現に小生市内見物をあし歸路一人にて小船を雇ひ候處少しく漕ぎ出すや否不法ある賞金の請求を始め候前方は三人此方は一人にて小々氣味悪しく有之候ひしも時は白晝にて船舶の往復繁く且漁船の出帆までには數時間の餘裕あり此方に充分の強み有之候爲め彼等は別に何事も仕出し得ず定規の賞金を受取り去り候當地には日本の雜貨店(清水商會)あり小生も該店に立寄り種々談話致し當地の有様杯を聞き候二十八日午前六時頃コロソボ解纜す十一月二日には早や南方に亞非利加を望むに至れり一帶の陸地凡て砂地にして一の草木を見ず三日天長節の午前十時半頃アデンに着て數時間碇泊致候得共小生は上陸致さず候船中より見たる所では當市は山に據り廣濶ならず土地最も脊土にして宛も燒跡の如く何方を眺めても一の綠葉を見ることが能はず候暑氣はコロソボ邊よりも却て強き様に思はる候日本を離れて當地までの間立寄りし港は皆英領にして特に當所の如きは紅海の口にあり此所を扼すれば船舶の東より來るもの一の紅海へ入るものあかるべく地中海より來るものは紅海を出す能はざるべし實に此

所はジアルターと相對して一重要の地あるが如し而し兩所共に英領あり英人の得意思ふべし三日午後五時同所解纜す四日五日は暑氣強く困却致候七日午後五時頃スウェスカナールに着す暑氣頗る退減し却て冷氣を感ずる様にあり候三時間許り滯留の後同所を發すスウェスカナールに入込みりカナールの入口には青紅の兩燈相對立せり是より一定の距離に於て斯の如き一對の燈ありて船の進行すべき路を示す(晝は浮標ありて之を示す)カナールの長さ七十八英里とありと幅は廣狹一定せず狭き所は三十間を出でざるべし稍々廣き所に至りては向ふより來る船を待合せ其經過を待て進行する有様にて甚だ退屈の思を致候八日早朝に至り船誤て浮標の外に出で淺所に乗揚げ候大船の事なれば曳けども押せども少しも動かす不得已最近の運河役所に急報し數艘の小船を雇ひ積込みある荷物を一々取出すことゝなれり斯くして九日の午前十一時頃に至り漸くに浮み出で候因て再び荷物の積込を致し十日の正午頃始めて進行を始むるを得たり此の間の退屈ありしことは實に筆紙に盡されず兩岸は不毛の砂漠にして一の人家なく散歩を試みることも出來ず見物する物もなく實に閉口致候然し暑氣の強からざりしと天氣の宜しきとは不幸中の幸に有之候、十一日午前一二時頃カナールの北口に在るポルトセッドに着て同五時頃同所解纜十二日正午頃には早カンデア(クレター)の嶋を北方に臨むに至り十三十四兩日は風強く波高くして船の動搖甚し十四日の午前二時頃メッシナの海峽を經過し午後一時半頃チアーベル府に到着致候是を即ち小生の始めて見し歐洲の都に有之候該府は丘陵に據り風景甚だ宜しき丘陵の最も高き所に昔の王城あり大厦高樓海岸に列する有様甚だ美麗なり又市の東方に當りベシボウス山巍然として聳へ盛に烟を噴出する様實に壯觀なり然し或獨人の話には該府は表許り美麗なるも裏の方は甚だ汚穢なりと小生は上陸不致候につき此の言の信偽は知り不申候瀛船の

到着するや否や、忽ち數多の商人及物賣ひ等の群集するは別に東洋と異なる所あり十五日午後一時頃同所出帆し十六日午前七時頃エルバ嶋を左に臨み同日午後三時頃グノアに到着致候小生は茲にて船を下り直ちに停車場に至り午後六時四十五分發の急行列車にて出發致候マイランドに至りし頃は既に日は暮れ候はつきシユヴァイツ國の壯景を見るを得ざりしは實に遺憾に有之候然し當日は雨天に有之候ひし間晝間經過えても餘り違ひなかりしあらんと存候十七日午前七時頃には早や同國を經過し獨逸國に入り同午後六時半頃フランクフルト、アム、マイン府着茲にて五時間停車致候に付瀛車を下り散步を試み候同府は獨逸屈指の大都會あるにより市街は甚だ美麗に有之候特に同府の停車場は歐洲第一と稱せらるゝものにして其廣大あると諸事の整備せるは實に驚くべきものに候午後十一時十五分頃同所發の瀛車にて十八日午前十時半頃伯林府到着致候。

右は小生の道中の大略に御坐候急ぎ認め候につき不充分なる所もあり又讀み難き所も有之べくと存候御判讀被下度奉願候也謹言

明治二十七年一月

大瀨 甚 太郎

龍南會々員諸賢御中

魯 韓 蹈 雲 錄 (承 前)

助教授

矢 津 昌 永

八月二日、夙に起き出發の豫定あり、余の腹痛未だ止まず、僅に扶けて馬に上り、温井を發す、途、東萊府の郭外を過ぐ、府使代々の紀念碑……「府使某公万世不忘之碑」と題するもの、市端に建立すること少からず、聞く、府使交任する毎に、士民一々、之を建つ是れ眞に敬慕の誠意より出づるものにあら